

事業計画書概要

令和6年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業（ウクライナ復興支援・中東欧諸国等連携強化）

事業名	ウクライナ・ポーランド共和国 コールドチェーン実証事業		
企業名	株式会社フジタ	企業規模	中小企業・中小企業以外
事業形態	FS実証事業（実証事業）		
事業分野	①情報通信 / ②エネルギー / ③交通 / ④都市基盤 / ⑤医療 / ⑥介護ヘルスケア / ⑦農業・食品 / ⑧廃棄物処理 / ⑨デジタル・プラットフォーム / ⑩その他		
事業規模	事業費総額：6,000百万円 / 補助対象経費総額：6,000百万円 / 補助金申請額：3,000百万円		

事業概要

【商業化時のビジネスモデル】

日本 国外

利用 小売、卸業者 小売、卸業者 (EU・中近東アフリカ地域等)

提供者・設備 フジタ (幹事法人) 現地SPC 競合他社

設備機器業者 AI・DX協力業者

事業パートナー 日本政府 関連機関 投資 協力会社 現地法人 各国卸企業等 物流会社 支援機関 現地 政府機関

マーケティング 調査会社

ステークホルダー

サービス/モノの流れ

カネの流れ

その他 (技術連携等)

【目的】

- ウクライナからの果物・野菜・畜産物を保管・一次加工（果物・野菜等）の上、付加価値を高めEU・中近東アフリカ地域等に販売・運用する事業性を判断する。

【実施内容】

- 冷蔵冷凍施設設置（詳細設計・外注契約・建設許可申請等の事前手続きを含む）
- 冷蔵冷凍機器据付/稼働（品質確保）、AI/DX活用によるトレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品売買最適化支援システム導入
- ウクライナから最終市場までの冷蔵冷凍生鮮品の安定輸送の検証

【実施方法】

- 冷蔵冷凍施設設置：現地設計事務所・ゼネコンを活用し、詳細設計や許可申請等を経て施設設置。
- 冷蔵冷凍機器据付/稼働：設備機器業者等の鮮度保持機器を導入し、稼働状況や品質保持効果を検証。将来の商用展開に向けた条件を整理する。
- AI/DX活用：トレーサビリティチェック及び冷蔵冷凍品の売買最適化支援に関して、PoC（概念実証）を実施し、データ取得・可視化・制御を検証。
- 食品輸送：ウクライナから最終市場（例：EU・中近東アフリカ地域等）へのコールド輸送について、物流会社と連携し、鮮度保持と安定輸送を検証。

【主な技術・サービス】

- プレキャスト工法（PC工法）の活用検討
 - ⇒コンクリート部材（柱・梁等）を予め工場で製作し、現場で組立・施工する工法。工期短縮、現場作業の安全性向上、工期短縮、品質安定性等が期待できる。
- 冷蔵冷凍機器とAI/DX技術連携
 - ⇒日系の冷蔵冷凍機器を活用し鮮度・品質を追求。AI/DX技術を導入し、クラウドを活用したデータ分析、アルゴリズムでトレーサビリティ、売買最適化プラットフォームを構築。

【スケジュール】

- 交付決定日～3年間を想定

プレキャスト工法例

ウクライナ復興への貢献

【ウクライナ農業復興支援】

- ウクライナ農業の再建に向け、日本およびポーランドと連携し、冷蔵・冷凍・加工機能を活用した輸出型サプライチェーンの復興が見込める。これにより、農産物の高付加価値化を実現するとともに、鮮度保持技術や物流体制の強化を図り、ウクライナの持続可能な国際市場での安定供給基盤を構築する。
- ウクライナ和平後フェーズ2として、ウクライナ・オデーサ周辺に冷蔵冷凍施設を新設し、ポーランドと連携した越境型のコールドチェーンサービスを構築する計画である。オデーサ港の物流機能を活かし、果実・野菜・畜産品の集荷および一次加工を担う地域拠点として機能させ、周辺農業の復興と外貨獲得型輸出強化を支援する。将来には、ウクライナ産品の第三国向け輸出拡大に向けた広域輸送ネットワークの要として展開を見込む。